

豊かな人間形成を目指して 9月から学校週5日制がスタート



子供たちを社会全体で見守ることが大切

「学校週5日制」が九月から全国一斉に実施され、国立の幼稚園、小学校、中学校、高等学校などは、毎月第二土曜日が休みとなります。この制度は、これまでの学校や家庭、地域社会での教育を見直すことによつて、これからの時代を担う子供たちに豊かな人間性を身につけてもらおうというものです。今回は、学校週5日制の考え方や対応などについてお知らせします。

学校週5日制の

目指すもの

学校は月曜日から土曜日まで通うもの、明治五年に実施された週六日制の学校教育の在り方が、今変わろうとしています。

今日、わが国においては、経済的に豊かな社会を形成するとともに、情報化、国際化、価値観の多様化、核家族化、高齢化など、社会の変化が著しく進んでいます。それらは、これからますます拡大し、加速化すること

が予想されます。このように社会全体が多様化し、大きく変化する中で、子供が自ら考え、判断し、行動できる資質や能力を育てる教育が求められています。

学校週5日制の導入は、これまでの共通した知識や技能を身に付けることを重視した教育から、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などを育てる教育を目指そうというものです。

学校週5日制によって生み出される時間を、家庭や地域社会において違う年齢の仲間との遊び、自然体験、社会体験、生活体験などに活用していただきたいのです。学校だけではできないいろいろな直接体験をすることとて、子供たちには物事に対する幅広い関心をもち、社会に適應する力や社会参加の意欲等が身に付けていきます。

学校・家庭・地域での

役割

市教育委員会では、三年十二月に学校関係者をメンバーとし

た「大館市学校週5日制検討委員会」を設置し、また、今年二月二十四日に幼稚園・学校関係者、PTA、生涯学習・福祉関係者をメンバーとした「学校週5日制対応委員会」(七月一日から学校週5日制推進委員会に名称を変更)を設置。学校週5日制実施上の問題点や課題などを把握し、具体的な対策と検討を進めてきています。その内容は次のとおりです。

学校では、週5日制の導入によって学力の低下とならないよう、各教科のカリキュラム編成や指導方法を工夫するなど、効果的な授業を実施していきます。また、児童生徒に余暇利用の仕方を指導するほか、共働きの家庭や低学年児童たちのために休みの日に学校施設を開放し、家庭の負担を少なくするよう配慮していきます。

家庭では、子供が親と一緒に過ごす中で、生き方や生活の知恵などを学ぶようにすることが大切です。また、親子が一緒に自然体験や郷土の歴史探訪、奉仕活動などをする機会を増やすようにしていく必要があります。

地域では、子供たちが休みになっても何をすればよいか分からない、あるいは活動の場がないということがないようにサポートしていくことが必要です。そのためには、学校施設や公民館



などを活用しながら、スポーツ、レクリエーション、趣味を生かす活動、ボランティア活動など、いろいろなプログラムを用意していくとともに、指導者を養成していく必要があります。子供たちには、いろいろなプログラムの中から自主的に選択させ、責任をもって取り組ませるようにすることが大切です。

地域社会が

一体となつて

学校週5日制の意義を浸透させていくためには、学校、家庭、地域社会がいままで以上に連携を深め、一体となつて、それぞれの教育機能を十分発揮していくことが大切です。

休日が増えることによつて、子供の生活リズムにゆとりを与え、より豊かな直接体験をさせることにより、子供たちの生活が活気あるものになるよう、社会全体で見守り、指導していきましょう。